

Tim Gardiner 博士は、英国 Environmental Agency の海岸工学の技術者であり、植物、昆虫などの生物多様性の専門家である。

9月19日には駿河台で講演会を行い、17名の参加があった。あらかわ学会事務局、JAMSTEC（国立研究開発法人海洋研究開発機構）、葛西東渚鳥類園友の会という海岸の生物多様性の専門家も参加した。講演の内容はイギリスの生物多様性に配慮した護岸、護岸の生物多様性、護岸の植生管理、生物多様性を高めるための日本の護岸の植生管理のあり方であり、前回来日したときの知見が日本の護岸の管理のあり方として検討されていた。

特に、東京湾における絶滅危惧植物ウラギクの保全については、具体的な保全策を立案しており、葛西臨海公園や荒川河口のウラギクの個体群の保全に活用できる内容であった。ウラギクが土砂の堆積した場所に生育していることから、土砂が堆積しやすい場所を整備することでウラギクの生育場所を確保するという提案であった。

講演の後、ひどい雨の中、荒川ビジターセンターに行き、レンジャーの説明を聞き、展示を見たり、現場を見たりした。参加者は5名で、ビジターセンター側から4名であった。展示を一緒にみることで、体験を共有することができた。

授業が始まったのちの9月25日には生田で講演会を開催した。生田緑地の指定管理者、3年生の参加もあり、参加者は19名であった。内容は、今回は学部学生向けという趣旨であったので、前回のパワーポイントの護岸の植生管理の一部を省略してていねいに説明したものであった。学部学生の質問が活発であった。

講演の副産物として、Tim Gardiner 博士の専門である昆虫の生物多様性の保全について、講演と質疑に基づいて論文を執筆し、一部の参加者と共著で投稿を準備している。日本の直翅目を対象としているので、我々日本の研究者の知見と彼の方向性が貢献するような論文が書けることが望ましい。論文が印刷された場合には、講演会の参加者に配布する予定である。

海岸工学が専門の Tim Gardiner 博士は2回の講演の合間に、仙台および松島を訪ね、東北地方の震災の被害と復興の現状を視察した。イギリスと日本のちがいは海岸の人口密度であり、イギリスでは海岸に住民がいないようにすることで安全を確保できるのに対して、日本ではそれができない。人口減少時代の日本において、空間の使い方に工夫ができないものか一緒に考え込んだ。